

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①新学習指導要領に基づき、生徒の状況やニーズに応じた教育課程の編成、検証及び改善に取り組む。</p> <p>②組織的に授業改善に取り組み、意欲や目標を持って主体的に学び考える力を育成する。</p>	<p>①新学習指導要領の趣旨を踏まえた、生徒の資質・能力を高めるための教育課程を編成する。</p> <p>②課題解決力を育成するための授業実践に取り組む。学習プロセスを意識し、また、生徒にも意識させながら、ICTを利活用するなどの工夫を行う。教材の共有も進め、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①学習指導要領改訂を見すえた研修会を開催するとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成を行い、実施に向けて指導計画を作成する。</p> <p>②授業研究を通して、組織としての授業力向上に努め、課題解決力を育成するための授業を研究・共有する。</p>	<p>①効果的な研修会を開催できたか。生徒の状況やニーズに応じた教育課程を編成できたか。</p> <p>②授業研究によって教員集団としての授業力が向上したか。生徒の課題解決力を育成するための授業ができたか。</p>	<p>①新教育課程について、各教科で実施に向けて、具体的な指導内容や評価の方法を検討することができた。</p> <p>②教科会や授業研究会において、教科としての目指す生徒像を共有することができた。また、ICTを利活用し課題解決力の育成に向けた授業改善に取り組むことで、生徒の課題解決力を育成する授業を推進することができた。</p>	<p>①令和4年度からの新学習指導要領段階的实施に当たって、「単元の指導と評価の計画」を作成する上で、教科・科目内での情報の共有を行う。</p> <p>②ICTの利活用をさらに推進し、生徒一人一台端末導入についても、効果的な授業方法に関する研究や研修会を実施し、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業について研究する。</p>	<p>①生徒の状況やニーズと学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の実施、特に、ICT機器を活用した授業の実施により、いっそう学力が向上し、生徒が自信を持つことを期待します。</p> <p>②組織的な授業改善により、課題解決力の育成をいっそう推進し、生徒の興味・関心、わくわく感を持続させ、生徒が主体的に学び考える授業を期待する。</p>	<p>①「課題解決力の育成」に向けた授業実践を行うことができた。また、令和4年度から年次進行で実施される新学習指導要領の「単元の指導と評価の計画」の作成に際して、教科・科目内での情報の共有を行い、指導計画や評価の方法についてよく検討した上で作成した。</p> <p>②ICTを利活用し、オンラインによる同時双方向授業に取り組む教員が増加した。今後は、課題解決力の育成に向けた授業でのICTの効果的な活用方法の研究が課題である。</p>	<p>①新学習指導要領における指導計画や評価の方法について、さらなる研究が必要である。</p> <p>②引き続き、「課題解決力の育成」の実現に向け、授業改善に継続して取り組む。また、新入生よりクロームブックを一人一台所有させることを踏まえ、ICTを利活用した授業により積極的に取り組み、その効果について検証する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①新羽生としての自立と自律を促し、誇りと自覚及び積極的で能動的な態度を持つ生徒を育成する。</p> <p>②生徒がルール・マナーなど社会規範を遵守する意識を持ち、安全かつ安心して学べる学校づくりを推進する。</p>	<p>①コロナ禍において、行事を開催できるよう工夫や見直しをしながら、安全に配慮した計画及び支援をしていく。</p> <p>①部活動加入率50%を目指し、広報活動等の支援体制を整える。</p> <p>②生徒の安全で安心できる学校生活と希望する進路の実現につながる生徒指導・支援を実施する。</p>	<p>①実行委員長や生徒会本部の生徒と連携を図り、生徒会活動や部活動への意識高揚と、広報活動を計画的に行う。</p> <p>②学校生活におけるルールやマナー等を生徒に周知徹底する。職員は、指導方法等の情報共有を十分行い、全職員の指導力を向上させ、生徒ひとり一人に丁寧な指導・支援を実施する。</p>	<p>①各行事の事後アンケートにおいて、満足度が向上したか。部活動への意識調査を実施し、実態把握ができたか。また、部活動加入率が向上したか。</p> <p>②特別指導件数及び交通事故件数が減少したか。また、外部からの生徒指導に関する情報提供や苦情が減少したか。</p>	<p>①コロナ禍が続き、文化祭は中止、ウインターライブは内容を変更して開催、体育祭は日程変更及び規模を縮小して実施した。アンケートでは概ね満足できたという結果であった。</p> <p>①コロナ禍が続く中、部活動への加入を推進することがあまりできなかった。</p> <p>②特別指導は7件であった。(前年度8件)交通事故は4件であった。(前年度4件)②生徒の登下校のしかた等に関する近隣からの苦情は増加した。</p>	<p>①行事の日程変更については、3年生の進路活動との関連で調整に課題が残った。また、行事の規模を縮小しても工夫次第で満足いく内容ができることを確認できた。</p> <p>①部活動の加入率は昨年同様42%であった。</p> <p>②特別指導、交通事故、近隣等からの苦情について、生徒の規範意識だけでなく、自己管理能力の向上を目指した指導の工夫が必須である。また、保護者、地域等とのさらなる連携に努める。</p>	<p>①コロナ禍での行事の開催は工夫が必要で、評価する。</p> <p>①部活動は人とのふれあいという意味でも大切である。加入率50%を目指してほしい。</p> <p>②地域の子供たちが新羽高校の生徒を見て、よりいっそうあこがれをいさぐ存在となるよう期待する。</p> <p>ルールやマナーを正しく理解させるには、生徒の実態を見ながら啓発の実態を繰返し行う必要がある。</p> <p>生徒一人ひとりの状況を把握し対応するのは時間的に難しいと思うが、教職員間の連携を図ることを大切にしていきたい。</p>	<p>①コロナ禍が続く中、学校行事の実施や規模の縮小、中止等の判断については、適切であったと考えている。部活動の加入率は、依然40%程度なので、向上に向けた取組を再検討する必要がある。</p> <p>②特別指導件数及び交通事故件数は、前年度とほぼ同じだったので、さらなる減少を目指す。SNS等を介した生徒間トラブルが増加している所以对策を検討していく。</p> <p>②生徒の登下校時のマナー等については、職員による通学路指導の継続により効果がみられた。</p>	<p>①引き続き、生徒が主体的に運営していく学校行事にするための指導に取り組んでいく。コロナ禍ではあるが、部活動加入率の向上に向けた効果的な働きかけを工夫していく。</p> <p>②生徒の規範意識とともにコミュニケーション能力の向上を目的とした生徒への支援に重点を置いた指導を進める。そのため、職員全体の支援・指導スキルを上げるための研修等を実施する。</p> <p>②職員による通学路指導を継続し、生徒の交通ルール・マナーの定着をいっそう進める。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月30日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①激動する現代に適應できる人材の育成を図る。  ②生徒が目標を持ち、基礎的・汎用的能力の育成を通して、希望する進路を実現する意識の向上を図る。	①生徒の希望に合った進路の実現を図る。  ②授業やガイダンスなどを有効に活用し、自己実現に向けた目標の設定を行わせる。	①進路希望調査や分野別のガイダンスを実施し、生徒の希望の把握とその実現に向けた指導を行う。  ②総合的な探究の時間を活用し、目標設定と実現の手立てについて理解させる。	①進路希望調査や分野別の説明会等が適切に行えたか。また、進路希望と進路先が合致したか。  ②総合的な探究の時間を適切に活用できたか。また、目標に沿った計画が立てられたか。	①大学進学者は39%、就職希望者内定率100%など、多くの生徒の進路希望をかなえることができた。  ②第1、2学年では、分野別説明会等を実施した。第3学年では、進路探究を希望別に実施し、希望に沿った探究を行うことができた。	①②約7割が指定校推薦での大学入学であるが、校内選考もあるため第一希望と異なる場合もあるので、総合型選抜や一般入試にチャレンジする生徒を増やしたい。専門学校進学希望者には、複数の学校を比較し、しっかり学校選びができるよう指導していく。	①充実した進路指導・支援により、多くの生徒が自らの進路を真剣に考え、希望する進路の実現に向けて努力していくことを希望する。  ②進路への意識付けの取組の成果が表れている。	①生徒一人ひとりに最新情報を提供することができたが、総合型選抜や一般入試にチャレンジする生徒が少ない。また、進路未定者への指導も課題である。  ②進路業務の効率化が進み、点検に使う時間の確保により、事故防止を徹底することができた。	①生徒の状況と進路希望を把握し、必要な情報をスムーズに選別して提供することが大切だが、1、2年段階から生徒の主体性や自己管理能力をより涵養していくことにより、自分の進路をよく考え、チャレンジできるようにしたい。  ②昨年度より、ハローワークのWEB求人を中心に求人票を活用しているが、紙の求人票を活用する生徒もいるので、扱いを整理していく。
4	地域等との協働	地域に開かれた学校づくりをいっそう推進するとともに、学校行事等の発信等を通じて、地域から信頼される学校づくりを強化する。	①学校運営協議会やPTA等と連携しながら、本校の教育活動を確立するとともに、発信し、地域から理解され、信頼される学校づくりを推進する。  ②まちコミやHPを活用し、学習状況や学校行事等を発信していく。	①地元の小中学校と授業や行事を通しての交流を積極的に行い、生徒・職員ともに新羽地区のさらなる発展を目指す。  ②年間を通じて、本校の学習状況や学校行事等を適時に多様な方法で発信し、さらなる理解を求めている。	①地域主催の行事への本校生徒の参加人数が増えたか。また、本校の行事に参加する人が増えたか。  ②生徒及び保護者がまちコミ登録できたか。また、HPの更新回数やアクセス数が増えたか。	①コロナ禍が続く中、学校運営協議会は書面開催となったが、PTA総会は対面開催できた。また、学校説明会は例年よりも規模を縮小して実施した。個別に学校説明を希望し来校する中学生や保護者も多く、その希望に応じた。  ②コロナ禍が続く中、緊急の情報発信が多かったが、迅速的確に発信することができた。	①コロナ禍が続く中、実現できなかったが、引き続き、小・中学校や地域との連携を図っていく。学校説明会については、さらなる内容精選と充実を図る。  ②まちコミはほぼ全員が登録できているので、今後も迅速・適切に発信していく。HPの更新回数は増えたが、もう少し頻繁に更新したい。	①コロナ禍で、イベントが中止になったり、規模を縮小したりしているが、通常開催になった時のさらなる充実を望む。コロナ禍の生活に合った行事や交流を考えていくことが大切だと思う。コロナが落ち着いたら、小・中・高が連携し協働できることを模索していきたい。  ②コロナ禍が続く中、まちコミでの頻繁な連絡は評価できる。	①昨年度に引き続き、会議等は書面開催となったが、PTA役員と学校側で定期的に会議を開催し、積極的な意見交換ができた。学校説明会や学校見学は参加者が多く、入試での志願者数は昨年度とほぼ同じだった。  ②生徒の新型コロナウイルス感染拡大防止対策に苦慮したが、まちコミ等での迅速な情報発信により教員・生徒・保護者に大きな混乱は見られなかった。教頭編集による学校だより「羽ばたけ」を発行し、学校の様子を定期的に知らせることができた。	①コロナ禍が続く中での行事開催の形態等について、検討を進めていく。学校説明会については、新学習指導要領を踏まえた内容にしていく。  ②引き続き、新型コロナウイルスに係る県からの指示と本校の状況等について、HP・まちコミメール・Google Classroomで発信し、生徒及び保護者に浸透させていく。引き続き、学校だより「羽ばたけ」を定期的に発行していく。
5	学校管理 学校運営	①学習環境及び生活環境の見直しとさらなる整備を目指す。  ②学校運営のさらなる効率化と事故不祥事防止に取り組む。	①昨年度に開設した自習室の環境整備を進め、生徒のさらなる活用を促進する。また、ICTを利活用するための環境整備を推進する。暑さ対策にも留意し、学習環境を整備していく。  ②業務内容をさらに精選し、より円滑な学校運営を行う。 ③定期的に不祥事防止啓発活動を行い、意識を高揚させる。	①ポスター等で更に周知し、生徒の利用人数を増加させるとともに、学習環境に対する苦情が減ったか。  ②多岐にわたる業務内容の精選とともに、各グループ等が連携を図り効率化を進める。 ③事故防止会議や朝の打合せを通じて、相互啓発活動を徹底する。	①年間を通じて自習室を活用する生徒が増えたか。特に3年生に有効活用された。暑さ対策のため、断熱工事の実施や遮光カーテンの設置などをした。コロナ対策では、引き続き、消耗品を必要に応じて的確に準備した。  ②ICTの利活用により、会議や授業等での業務の効率化を推進した。 ③定期的に不祥事防止会議・研修を行い、また、事故防止センターを設立して事故防止に努めた。	①自習室を継続活用することで学習習慣を身に付けさせるとともに、自己管理能力を醸成していく。断熱工事を実施したので、次年度はその効果に期待する。  ②次年度入学生から生徒の一人一台端末が導入されるが、ICTのさらなる利活用で授業等でのさらなる業務の効率化も推進していく。 ③事故ではないものの、ヒヤリハット事案が複数あったので、なくしていく。	①生徒の学びの環境が整えられていることを評価する。生徒にとって学びやすい環境について、常に考えてほしい。  ②今後も不祥事ゼロを目指して努力してほしい。	①自習室は自習での使用のみならず、学校説明会や入選業務等においても有効活用されているが、生徒にとって利用しやすい自習室とするための管理方法等に課題がある。  ②昨年度各教室に配備された大型テレビは、今年度、授業やオンライン説明会等で頻繁に活用された。 ③不祥事ゼロを目指し、啓発活動を不祥事防止会議・研修会、朝の打合せ等で繰り返し実施した。	①校舎の老朽化の状況を踏まえ、生徒の安全・安心を第一に迅速に対応していく。  ②クロームブックやWi-Fiの整備を引き続き、継続的に行っていく。	

